

故 名 誉 員 山 崎 匡 輔 氏 を し の ぶ



土木学会 名誉員 工学博士 山崎匡輔先生は、昭和38年8月8日午後11時55分軽井沢の別荘で脳出血のため、永眠されました。謹んで哀悼の意を表します。

先生は明治21年2月9日に群馬県桐生市で誕生され、大正5年に東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業、ただちに鉄道院に就職されましたが、大正9年母校に助教授としてかえられました。昭和14年に教授となられ幾多の学生を教育され、また鉄道工学に関する数々の研究を行なわれました。

昭和22年に退職されるまでの27年間の大学生生活は先生のいろいろな公的なご生活のうち、期間は最も長く、また充実したものでありましたが、さかのぼって昭和20年9月、終戦直後に文部省に招かれて科学教育局長を兼務され、引き続き文部次官になられました。このような教育研究行政の分野における先生の貢献は昭和20年より日本学術振興会の理事、昭和23年10月より東京都教育委員会委員長、昭和26年4月より慈恵会医科大学顧問、昭和27年10月より成城学園長などのお仕事にみられるように、これまた多岐にわたるものであります。

一方、わが国の放送事業にも意を用いられ、昭和24年5月より日本放送協会常務理事になられて、いわゆるNHKの運営の最高責任者の1人に列せられたわけであります。また翌年には放送教育研究会全国連盟理事長にもなられました。

本土木学会では昭和13年度常議員編集委員長、14年度理事総務部長をされ、昭和36年度に名誉員に推挙されました。

教育研究行政、放送事業などの方面にまで活躍されたのは先生の広い学識と、円満なご人格とによることはいまでもありませんが、長年にわたる東京大学での研究、教育生活の間に培かれた学究的態度と、内村鑑三先生に直接師事された鼓々なクリスチャンとしての神につかえる精神とが、大方の信望を集めていたからかと推察しております。生粋の土木学会会員として、これだけの広い分野に活躍された例はそれほど多くはないと想像しますが、それだけに先生を通じ各方面が土木界への認識をあらたにした意味でも先生の貢献は小さいものではありません。

先生は東京大学においては、土木工学第一講座を担当され、鉄道工学を専攻されました。幅の広い鉄道工学の講義をするためには、これまた幅の広い準備が必要でほう大なノートを先生はいつも研究室にかかえておられました。先生が深く研究されたものの一つは線路関係であります。「隧道内のコンクリート道床」に関してはこれまたいくつかの発表と、貴重な研究資料がつくられてゆきました。今日地下鉄道隧道もふくめてコンクリート道床が、かなり一般化した蔭には、先生以来の研究成果の積み重ねが大きく物をいっているのであります。

先生に指導していただいた1人として、研究について幾多の貴重なご指示を受けましたが、必ずしも先生の意図にそわない事をやっても温かく、静かに、やる事を見守って下さいました。その当否は体験によって当人に体得させようというのが、指導のご方針だったように思われます。

時たまご家庭をお訪ねして家庭の人としての先生を拝見することができました。令夫人と2人の令息にかこまれたよき支柱であったようにお見かけしました。すでに立派に令息がたが成人され、社会の有用な人材として活躍されているのは、先生としてご安心の一つであったと思います。

しかし今、幽明境を異として、再び先生のお元気な姿に接し得ないのは残念至極であり、謹んでご冥福を祈る次第であります。

〔東京大学 八十島義之助・記〕